

1 令和2年度業務実績評価（年度評価） 評価（素案）からの主な修正箇所一覧

No.	評価書（案） 該当箇所	評価（素案）の文章	修正案	備考
1	p. 3 全体評価 1 総評 ● 1つ目	令和2年度、東京都公立大学法人（以下「法人」という。）の業務は、新型コロナウイルス感染症の影響により、グローバル化に関する取組をはじめ、計画内容の変更を余儀なくされたが、迅速に代替措置を講じるなど、教育研究活動の水準の維持に努めることで、概ね順調に進められた1年であったと評価する。	令和2年度の東京都公立大学法人（以下「法人」という。）の業務は、新型コロナウイルス感染症の影響により、グローバル化の取組をはじめ、事業内容の変更を余儀なくされた一方で、オンライン授業や寄附金による学生支援等、新たな取組を迅速に講じるなど、教育研究活動の水準の維持に努めることで、概ね順調に進められた1年であったと評価する。	
2	p. 4 全体評価 1 総評 都立大 ● 2つ目	eラーニングシステムのサーバー増強等を行い、コロナ禍にあっても、オンライン授業を滞りなく進め、前期授業アンケートで学部生の7割以上、大学院生の約8割から「満足」との回答が得られた。また、郵送による図書貸出及び複写サービスを新設し、コロナ禍における学生や教員の教育研究活動の支援の充実を図った。	コロナ禍において対面授業の実施に制約がある中、オンライン授業を迅速に開始するとともに、オンライン形式に適した授業を展開するなど工夫を図り、前期授業アンケートで学部1年生の約60%、学部2～4年生の約75%及び大学院生の約80%から「とても満足」又は「やや満足」との回答が得られた。また、郵送による図書貸出及び複写サービスを新設し、コロナ禍における学生や教員の教育研究活動の支援の充実を図った点が評価できる。	
3	p. 4 全体評価 1 総評 産技大 ● 1つ目	東京都立産業技術大学院大学（以下、「産技大」という。）では、令和2年度から、起業・創業や新規事業開発を担う人材を育成する新しい学位プログラム（事業設計工学コース）の開設に伴い、1専攻3コース体制へと研究科を再編し、初年度のカリキュラムを着実に実施した。	東京都立産業技術大学院大学（以下「産技大」という。）では、企業における新規事業開発や起業・創業を担う人材を育成する新しい学位プログラム（事業設計工学コース）の開設に伴い、令和2年度から1専攻3コース体制へと研究科を再編した。初年度のカリキュラムの実施に当たっては、コロナ禍において対面授業の実施に制約がある中、ウェブ会議システムを用いた同時性・双方向性を確保したオンライン授業とオンデマンド授業を組み合わせるなどの工夫により、効果的な教育を実施した。	p. 11 項目別評価 大項目 12も 同。
4	p. 5 全体評価 1 総評 法人運営全般 ● 1つ目	法人の業務運営においては、会計、旅費、文書管理及び施設予約についてシステムの更新・導入等による業務執行の効率化に向けた取組が推進された。また、法人全体、とりわけ事務組織全体でテレワークを行いやすい環境が整備され、コロナ禍の収束後も多様で柔軟な働き方が可能となった。	法人の業務運営においては、コロナ禍にあっても業務を継続できるようテレワーク環境を整備することで、在宅勤務やオフピーク通勤等、多様で柔軟な働き方を可能とするとともに、会議や打合せの大半をオンライン形式で行うことにより、移動時間の節約やペーパーレスを推進した。加えて、会計、旅費、文書管理及び施設予約についてシステムの更新・導入等による業務執行の効率化に向けた取組を推進した。	
5	p. 5 全体評価 1 総評 法人運営全般 ● 2つ目	(記載なし)	「東京都立大学 新型コロナウイルス緊急支援基金」を設置し、約3千万円の寄附を集め、大学独自の緊急支援金を経済的に困窮する学生に支給するなど、学生支援に尽力した。	
6	p. 5 全体評価 1 総評 法人運営全般 ● 3つ目	都立大で発生した大学院入試問題漏えい等の事故を受けて策定した各種再発防止策に基づき、コンプライアンスカードの全教職員への配布やコンプライアンス教育を通して、教職員としての倫理観、コンプライアンス意識の一層の醸成を図った。	コンプライアンスカードの全教職員への配布やコンプライアンス教育を通して、教職員としての倫理観、コンプライアンス意識の一層の醸成を図った。	

No.	評価書（案） 該当箇所	評価（素案）の文章	修正案	備考
7	p. 8 項目別評価 大項目 1	<p><更なる充実が期待される点> <u>コロナ禍での外部英語試験の中止はやむをえない面もあるが、学生の英語能力の把握・向上を図るためにも、オンラインでの実施も検討されたい。</u></p>	<p><更なる充実が期待される点> <u>1年次の外部英語試験について、コロナ禍での中止はやむを得ない面もあるが、学生の英語能力の把握・向上を図る上で有益な機会であるため、オンライン形式での実施等の工夫により、コロナ禍にあってもこうした機会を設けられることを期待する。</u></p>	
8	p. 10 項目別評価 大項目 11	<p><更なる充実が期待される点> AIMS プログラムについては、<u>受入留学生の出身国・地域の多様化にも寄与するもの</u>と考えるので、<u>更なる拡充に取り組み、留学生受入れ増につなげる</u>ことを期待する。</p>	<p><更なる充実が期待される点> AIMS プログラムは、<u>留学生の受入国の多様化にも寄与するものである</u>と考える。<u>今後、これまで培った経験やノウハウを生かし、多様な国の大学との学生交換が広く展開されるよう、更なる取組</u>を期待する。</p>	

2 第三期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績評価（見込評価） 評価（素案）からの主な修正箇所一覧

No.	評価書（案） 該当箇所	評価（素案）の文章	修正案	備考
1	p. 4 全体評価 1 総評 ● 2つ目	想定外に生じたコロナ禍の影響により、第三期中期計画の後半の期間は、計画策定当初に予定していた事業の内容を大幅に見直しつつ取り組まざるを得ない状況が生じているが、オンラインを活用した代替措置を講じるなど、迅速かつ適切な対応が進められている。中期目標の達成に向けては、こうした取組や工夫をコロナ禍の収束後においても活かしていくことが期待される。	想定外に生じたコロナ禍の影響により、第三期中期計画の後半の期間は、 <u>グローバル化の取組をはじめ、計画策定当初に予定していた事業の内容を大幅に見直しざるを得ない状況が生じている。一方で、オンラインツールを活用することで満足度の高い授業を行うなど、その有効性を生かした取組を迅速に進めている。中期目標の達成に向けては、コロナ禍の収束後においても、こうした取組や工夫を発展させ、更に効果的・効率的な運営が推進されることを期待する。</u>	
2	p. 5 全体評価 1 総評 産技大 ● 3つ目	教員の教育能力の向上を図るための FD フォーラムへの教員参加率が 100%を継続するとともに、学生による授業評価アンケート結果に関する目標が十分に達成されている。また、令和 2 年度に学内の PDCA サイクルの機能強化のため、内部質保証室が設置されたが、今後、大学としてふさわしい自主的・自律的な自己点検・評価、内部質保証システムが機能することを期待する。	教員の教育能力の向上を図るための FD フォーラムへの教員参加率 100%を維持するとともに、学生による授業評価アンケート結果に関する目標が十分に達成されている。また、学内の PDCA サイクルの機能強化のため、令和 2 年度に内部質保証室が設置されたが、 <u>今後、各組織体の役割と連携関係が明確になり、大学としてふさわしい自主的・自律的な自己点検・評価、内部質保証システムが機能することを期待する。</u>	p. 13 項目別評価 大項目 14 も 同。
3	p. 6 全体評価 1 総評 産技高専 ● 6つ目	産技高専の学生を主な対象とする 2 つの海外体験プログラムは、計画期間中、コロナ禍による中断やオンラインプログラムへの代替があったものの、定員である 70 名の参加を初年度より実現し、渡航前後のプログラムや現地日系企業での研修等も含めた充実したプログラムを提供している。今後は、コロナ禍における新たな代替手段も活用して海外体験プログラムの充実に努められたい。	産技高専の学生を主な対象とする 2 つの海外体験プログラムは、定員である 70 名の参加を初年度より実現し、渡航前後のプログラムや現地日系企業での研修等も含めた充実したプログラムを提供してきた。コロナ禍においては、プログラムの中止を余儀なくされたものの、オンラインツールを活用した現地との交流等を新たに開始している。 <u>こうした経験も踏まえ、海外体験プログラムの更なる充実に努めていただきたい。</u>	p. 17 項目別評価 大項目 29 も 同。
4	p. 7 全体評価 1 総評 法人運営全般 ● 6つ目	近年、情報セキュリティ事故や大学院入試問題漏えい等の事故が発生していることは残念である。二度とこのような事故が起きることのないよう、全教職員のコンプライアンス意識の更なる醸成を図り、法人一丸となって各種再発防止策を徹底されたい。	近年、情報セキュリティ事故や大学院入試問題漏えい等が発生していることは残念である。二度とこのようなことを繰り返さぬよう、全教職員の情報セキュリティやコンプライアンスに対する意識の更なる醸成を図り、法人一丸となって各種再発防止策を徹底していただきたい。	
5	p. 7 全体評価 2 中期目標の達成に向けた課題、法人への要望等 ● 3つ目	2 大学 1 高専の新たな連携に向けて、各校の事務職員によるワーキンググループによる検討や、各校教員との意見交換を踏まえて、令和 2 年度に「新たな連携の在り方」を取りまとめており、今後もこうした取組も積極的に進め、法人が積極的に 2 大学 1 高専の連携を主導し、中期目標の達成に向けて取組が推進されることを期待する。	2 大学 1 高専の新たな連携に向けて、各校の事務職員によるワーキンググループにおける検討や各校教員との意見交換を踏まえて、令和 2 年度に「新たな連携の在り方」を取りまとめた。今後もこうした取組を法人事務局が中心となって積極的に推進し、 <u>効果的・魅力的な事業・取組が生まれることを期待する。</u>	

No.	評価書（案） 該当箇所	評価（素案）の文章	修正案	備考
6	(p. 10) 項目別評価 大項目 1	<更なる充実が期待される点> 授業における TA 等の配置について、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により人数が令和元年度比で半数程度に留まっている。コロナ禍の収束後も見据え、配置人数の拡充に向けた取組の推進を期待する。	(削除)	業務実績等 報告書の内容 修正による
7	p. 12 項目別評価 大項目 10	<改善すべき点> 海外派遣学生数及び外国人留学生受入人数については、中期計画の目標値の達成が困難な進捗状況にある。残りの <u>2年間</u> でどのような対応を行うか検討すべきである。	<改善すべき点> 海外派遣学生数及び外国人留学生受入人数については、中期計画の目標値の達成が困難な進捗状況にある。 <u>コロナ禍でやむを得ない面もあるが、残りの計画期間でいかなる対応を行うか検討いただきたい。</u>	
8	p. 14 項目別評価 大項目 19	<優れた点・特色ある点> <u>AIIT 単位バンク制度や履修証明プログラムを着実に実施し、社会人を対象としたキャリアアップや学び直しの場を広く提供できている。</u> <優れた点・特色ある点> <u>平成 30 年度から事業を開始した AIIT シニアスタートアッププログラムは、社会人の学びやすさに配慮した職業実践力育成プログラムとして、充実したリカレント教育の場を提供している。</u>	<優れた点・特色ある点> <u>AIIT 単位バンク制度、履修証明プログラム及び AIIT シニアスタートアッププログラムを着実に実施しており、社会人の学びやすさに配慮しながら、充実したリカレント教育の場を広く提供できている。</u>	項目統合
9	p. 14 項目別評価 大項目 19	<優れた点・特色ある点> <u>AIIT フォーラム等公開講座は、オンラインでの開催等の工夫も施しながら継続的に開催し、毎年度、目標を上回る参加者を集めている。</u> <更なる充実が期待される点> <u>AIIT フォーラム等公開講座はオンラインを活用し、ますます幅広く多くの参加を得ている。コロナ禍の収束後も、こうした取組を継続することを期待する。</u>	<更なる充実が期待される点> <u>AIIT フォーラム等の公開講座は、オンラインツールも活用しながら継続的に開催し、毎年度、目標を上回る参加者を集めている。コロナ禍の収束後も、こうした取組を継続することを期待する。</u>	項目統合
10	p. 18-19 項目別評価 大項目 32	<優れた点・特色ある点> <u>法人内共通業務の効率化や、テレワークをはじめとする多様で柔軟な働き方を可能とする環境整備が進められている。</u> <更なる充実が期待される点> <u>今後、法人における働き方改革が推進され、多様で柔軟な働き方の実現や、法人内共通業務の効率化がより一層行われることを期待する。</u>	<更なる充実が期待される点> <u>法人内共通業務の効率化や、テレワークをはじめとする多様で柔軟な働き方を可能とする環境整備が進められている。今後、法人における働き方改革が更に推進されることを期待する。</u>	項目統合